

大分合同新聞

2008.2.16

模擬患者の
集いに60人

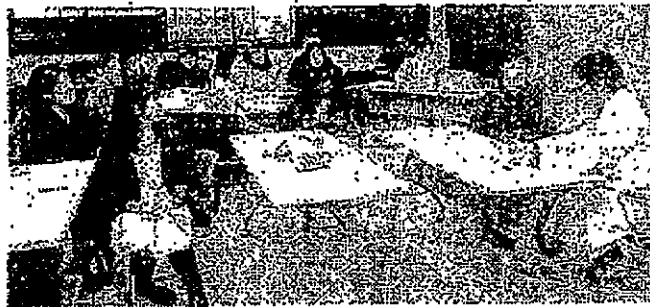
大分大医学部

「第十六回豊の国医療
コミュニケーションの集
い」がこのほど大分大学
医学部で開かれた。

医学生や研修医の医療
面接教育に欠かせない模
擬患者(S.P.)を演じる
人、あるいはこれから模
擬患者を目指すとする
人などの集いで、約六十
人が参加した。

世話人の同学部、中野
重行教授が「大分大は二
〇〇一年から医療教育が
ランティアとして模擬患
者の養成を始め、研修を

医療面接の演習も



重ねてきた。今、模擬患
者は歯学部や薬学部でも
必要になっており、模擬
患者が増えてほしいと願
っている」とあいさつし、

わが国の模擬患者の第
一号でもある岡山SP研
究会代表の前田純子さん
が、模擬患者とはどうい
うものかをミニレクチャ
ー、次いで患者役になっ
て医療面接の実演を行っ
た。それに倣い、参加者
は三人が一组になり、互
いに患者役、医師役、観
察者役になって、模擬面
接を体験し、学習した。
今回の集いは、大分の
模擬患者と交流を深めよ
うと東京から十人、岡山
から五人の参加があったほ
か、模擬患者をやってみ
ようという初参加者が十
余人と多かったのが特徴
だった。